

7月24日(日)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ
日刊サマーミュージック



Hobo Nikkan Summer Muza



**様々な編成で多彩な音楽
ノット監督の華やかな開幕宣言!**

7/23 東京交響楽団オープニングコンサート ジャズとダンス—虹色の20世紀

©N.Ikegami

「フェスタサマーミュージック KAWASAKI」のオープニングを飾るのは、例年通り、**ジョナサン・ノット&東京交響楽団**のコンビ。テーマは「ジャズとダンス〜虹色の20世紀」。

まず、恒例となっている三澤慶の「音楽のまちのファンファーレ」。ノットも演奏者も曲が身体に入っていて開幕に相応しい演奏。

クルタークの「シュテファン墓」は、独奏ギター(鈴木大介)、ヴァイオリンを除く小編成の弦楽器群、ハープ、複数の鍵盤楽器奏者、大人数の打楽器奏者、3階バルコニー席の金管楽器群というユニークな編成。音源で「予習」したイメージを遙かに超えた音響空間に驚く。

アメリカのポール・シェーンフィールドの「4つのパラル」は、30分程のジャズ・テイストのピアノ協奏曲。ノットは、1998年にこの作品のヨーロッパ初演を行っている、日本にも紹介したかったのだろう。アメリカで学んだ中野翔太がジャジーな雰囲気と超絶技巧との両立で作品を見事に再現。

後半、ドビュッシーの第1狂詩曲では東響クラリネット首席奏者の吉野亜希菜がオーケストラの中の席で立奏。ストラヴィンスキーの「タンゴ」と「エポニー協奏曲」は意外とクラシカルに聴こえた。そしてストラヴィンスキーの「火花」は、ノットらしい、色彩豊かで鮮やかな演奏。最後は、ラヴェルの「ラ・

ヴァルス」。流れ良く、力まず、洗練されていた。

様々な編成で多彩な音楽が楽しめたプログラム。ミュージアの聴衆の「ノットなら、知らない曲でも、何か面白いものを聴かせてくれるに違いない」という信頼とそれに応える演奏者たちとの素敵な関係性を実感した。(音楽評論家 山田治生)



シェーンフィールド「4つのパラル」にて



ジョナサン・ノット(中央)、ソリスト全員と

お客様から

何というセンスの良いプログラム!!すばらしい指揮・ソリスト・オケ!!ジャンル、民族、文化の融合!!コロナ禍でも開催してくださり感謝です!!(60代・大学教員・とりす1960)／夏のフェスタらしい、楽しい演奏会でした。オープニングにふさわしい曲ばかりで、「始まった!!」という感じ。これからの20日間がより一層楽しみになりました。ありがとうございました。舞台の切り替え作業もおつかれさまでした。心の中で拍手!!(gomame)／「今、ここでしか聴けない演奏」を、今年もノット=TSOがしてくれました。特にシェーンフィールドとラ・ヴァルスはほかに比べ様のない素晴らしさでした。※このフェス、永遠に続けて下さいね!(60代・会社員・わぐねりあん)／さすがノット監督!毎回意表をつく楽しいプログラミングに脱帽!(50代・会社員・みゅーとんとん)／ほぼ毎年通っていたサマーフェスタに去年は仕事が多忙で1回も来れませんでした。今年こうしてジョナサン・ノットが立っている姿を見て、盛りだくさんの曲を聴いて、なんて幸せなことでしょう。夏がやっと、「私の夏」になった気分です。夏はこうでなくては!(50代・会社員・川崎のYoko)

【明日の朝刊休みです】明日(7/25)は休演日のため、本紙の発行もお休みさせていただきます。次号発行は7/26です。

配信控え室から



サマーミュージックは配信も充実!
見どころ・聴きどころや
配信の現場の声をお届けします。

**上記レビュー公演のアーカイブ配信は
7/25(月)12時から開始!**

【出演】指揮：ジョナサン・ノット
ギター：鈴木大介
ピアノ：中野翔太
クラリネット：吉野亜希菜
クラリネット：谷口英治
管弦楽：東京交響楽団

【配信限定コンテンツ】
オープニングインタビュー：鈴木大介(ギター)
休憩時インタビュー：大野雄太(東京交響楽団 首席ホルン奏者)



初めての楽器がいっぱいあるから、まずはどこを撮ろうかと悩みました。バンドが5箇所に散らばっていてホール全体が鳴っている感じを出したかった。指揮者カメラが指揮台の真下にあるのでノットさんの迫力がすごいです!
(映像チームより)





次世代をになう3名のパイプオルガン奏者による「あした」をテーマにしたプログラム

「あした」と聞いて、あなたはまず何を思い浮かべるでしょうか。「あした」は「明日」とも「朝」とも書きます。単に「次の日」という意味にとどまらない、灯のような何か、この言葉に含まれているように思えます。

ホールアドバイザー松居直美による今年の企画は、この「あした」を主題にしています。登場する三人のオルガニストは、それぞれにこの「あした」に向き合い、考え、プログラムを生み出しました。

最初に演奏するのは三上郁代。フランスに留学し、複数の国際コンクールで優勝を果たしました。オルガニストにとって大切なレパートリーであるJ.S.バッハとブラームス、そして今年生誕200年であるフランク作品に加えて、得意のフランス作曲家作品を取り上げます。

次に演奏するのは大平健介。

2020年までドイツの教会専属オルガニストを務め、現在は日本で精力的に活動しています。現代作曲家とリストやロッシェニといった古典が交互に演奏されるプログラムで、ドイツ時代に、ともに教会で音楽プロジェクトに携わったカイ・ヨハンセンの日本初演作品が冒頭と終わりに登場します。

最後に演奏するのは石川=マンジヨル優歌。演奏のみならずラジオCM出演など、多岐に渡る活動が目されるオルガニストで、フランスの教会主任オルガニスト



三上郁代



大平健介



石川=マンジヨル優歌

トを務めています。ドビュッシーやラヴェル、フォーレなど聴きなじみのある作品の編曲版に加え、ヴィドールの大曲でコンサートを締めくくります。まさに三者三

様、三者三音なプログラム！オルガニストの表現する「あした」から、あなたは何を思い浮かべるでしょうか？あなたの「あした」も、そこにあるかもしれません。（事業企画課・も）

ホールアドバイザー松居直美企画 言葉は音楽、音楽は言葉 Vol.4《あした》 10月1日(土)14:00 開演

パイプオルガン：三上郁代、大平健介、石川=マンジヨル優歌

曲目：<三上>J.ブラームス：『11のコラール前奏曲』より「わが心の切なる願い」、V.オーベルタン：星のためのソナチネ他

<大平>A.ヴァメス：鏡 G.ロッシェニ：『小莊厳ミサ』より「宗教的前奏曲」、K.ヨハンセン：賛美（日本初演）他

<石川>C.ドビュッシー：月の光、J.A. ギラン：「マニフィカトのためのオルガン曲集—第2 旋法による組曲」

よりテノールをティエルスで、C.M.ヴィドール：オルガン交響曲第10番「ロマネスク」より終曲 他

チケット：全席指定 ¥3,500 U25(小学生~25歳) ¥1,000



パートナーショップのご案内
エンジョイ!
川崎!!
Enjoy Kawasaki

川崎西口商店街の「こしば」さんと、ランチメニューの「とんかつ定食」(写真・税込950円)をいただきました。サクサクとした衣に包まれたかつは、柔らかくてジューシー。口の中にお肉の旨みが広がります。午前11時から午後2時までがランチタイムになります。メニューは、とんかつ定食に始まり、かつ煮、生姜焼き、ハンバーグ、焼き魚、刺身…。全部で14種類。ライスとキャベツのおかわりもできます。食後にはアイスコーヒーのサービスもあって嬉しい限り。ミュージック川崎からは、少し距離(徒歩10分)がありますが、それでも訪れるだけの十分な価値があります！(やまちゃん)

鹿児島県産の純粹黒豚を使った 美味しいとんかつはいかがですか？



とんかつ割烹 こしば M 川崎西口商店街

パートナーショップ特典

飲食代 10%OFF ※クーポン持参者のみ

フェスタサマーミュージック公式サイト
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージックで
投稿してください！



Twitter: @summer_muza
Facebook: @kawasaki.sym.hall
Instagram: @muzakawasaki

いずれは、読み札に名称、絵札にホルンの写真を載せた「劇場かるた」なんてものを作ってみたくも思っています。子どもたちにも遊んでもらって、小さいうちから劇場に興味を持ってもらえような…うーん、あまり需要はないでしょうか？ご興味をもった全国のホール関係者の皆さん、是非ご連絡をお待ちしております(笑)
(経営管理課 す)

テレビでホールなどが映ったとき、これはどこだろうといつも気になります。有名どころはすぐわかるのですが、まだまだ修行中として、利き酒ならぬ「利き劇場」と胸を張って言えるぐらい出来るようになりたいですね。

旅行も好きなのですが、旅先に訪れた際には、その地域にあるホールなどに(催事もやっていないのに)立ち寄り、写真を撮り、施設のパンフレットをもらって、満足しています。

例えば小さい頃、吹奏楽コンクールの会場下見に父に同行していました。そんな訳もあって劇場やホールが好きになり、この世界に飛び込みました。

日刊サマーミュージック
Hobo Nikkan Summer Muza

ス
タ
ツ
フ
日
誌